

会報「榊葉」第二号
昭和43年8月1日 印 行
発行者 岡野 俊文 彦
編集者 中野 幸彦
発行所 津市広明町
三重県神社庁内
三重県神道青年会

〈榊(さかき)〉という字は、
榊木の合字であって、榊の
依代(よりしろ)とする榊
木であることからきた国字
である。また『万葉集』巻
四には〈榊樹〉と書いてサ
カキと読ませている。その
後特定の植物をさすように
なった。(平凡社百科辞典)

明治百年と青年

世論調査で国民の殆んどが明治百
年を知り意識しているこの年は近代
日本の一世紀としては誠に重大なる
年である。

明治天皇の御歳若くしての御英断
を考へる時、世情がそうなって来た
とのみで片付けることの出来ない大
事であつたと思ふ。

現代、内外情勢が実に困迷してい
る時あの維新の立役者となつた若い
志士達の動きは実に目を見はるばか
りである。唯々国を思い、身を投じ
て国運の展開を願つた人人。

今日我々は明治百年をむかへ何を
思い、何をなすべきかを考へる時、
どれだけ全国民に統一した目的があ
らうか。

余りにも数多い問題があり、各界
各層に目的を異にして動いては日本
の国情である。維新の成功は先に
もふれた如く、敵味方はあつても目
的は唯一つであつたのである。

明治百年は明治のよき時代をなつ
かしむのではない。昭和の現代に生
をうけた我々は、かの青年の志士達
の団結する力、身を投じてまでの国
を思ふ行動、国を思ふ一つの心に思
いを致すべきである。

なつかしむのが明治百年ではな
い。
百年前の精神を生かそうではない
か。

復古即維新

情 樹 正 浩

元日や神代のこととも思はるる 荒木田 守武の句である。この句の気分は、日本人なら誰でもわかる。スーッとわかつこのスーッとわかつことは、即自的にわかつ

いふことで、ちょうど魚が水を意識せず、人間が空気を意識せず、そんなことあたりまへではないか、といった状態であることである。実はこの事が大変大事なことであるが、強ひて理屈だてて考へると、此の句は不思議なことを言っているとも言へる。

そもそも元日は、天地新に魁がへり、物皆新しくなる日である。それなのに、遠い遠い、一番古い神代のことと思はれるといふのは一体どういふことなのか。

開き直って、かういふ風に尋ねられると、チョットばかり答に窮する向もあるのではなからふか。これは対自的の間ふといふことである。この対自的の間ふといふものは、概ね理屈であることが多いが、我々が気

付かず即自的に納得してをること、実はそのことが非常に大切な道理をもってをることを、揺り動かして気付かしてくれたいといふ点で意味がある。

今、如上の守武の句についてこれを考へると、始源に還るといふことが、そのまま再生であり初発であるといふ、日本人固有生命観を端的に吐露してをることに気がかきめられる。さうして、これは、誰か俤れた一人の教祖とか哲人とかが創唱した一種の考といつたやうなものではない、日本歴史を一貫してある生命原理、私はそれを「歴史の生理」と呼んでをるのであるが、一であつた。それであればこそ、文字もない庶民ですら、理屈ぬきで、肌で感じてスーッとわかるものであつた。

思ふにそれは、日本人が、いつとも知れぬ遠い昔から農業をもととする生活の中で体得した生命観であるが、この知慧は、私には人類の未来にとって極めて貴重なものを含んでをるやうに考へられる。

東洋に於て、永遠といふことは「繰り返す」といふことであつた。このことは、ギリシャの「存在論」やキリスト教の神の性格について考へれば容易に合点できるところであるが、その「繰り返す」といふことを生産生活に於て実にするものは、ほかならぬ農業であつた。春の田代とが秋の収穫祭として完成し、その年毎の繰り返しの中に、日本人は道の永遠の循環と豊満を、生命の充実と更新を満喫してきた。神嘗祭が神宮の正月であるといふ思想は、日本人には実は生得自明で身辺普遍的

な事実であり知慧であつた。(陛下御一代とて、それが大嘗祭であり、神宮二十年の式年遷宮であることも合せて考へていただきたい) 今年明治維新百年を記念する佳年である。誰でも知つてある通り、明治維新のスローガンは「復古即維新」であつた。あの輝かしい明治の大御代が、かうしたスローガンによって切つて落されたといふことの背後根柢には、それを極めてあたり前とする日本歴史の生理——革新原理があつた。それは決して誰かが考へ出した百年前の思想のまぐれといつたものではなかつた。

岡倉天心は、自ら日本最大の保守派を以て任じたが、彼によつて指導された画壇革新の運動は、事実それ以前の日本画を全く面目新しいものにしたのであつた。日本に於ては、真の保守は必ず真の革新であり、真の革新は必ず真の保守である。我々の眼前に於て、今、政治や思想の保守派と革新派が、血で血を洗ふ抗争を繰り返してゐるが、この保守と革新が真二つにぶつ裂かれてをるといふ事実こそ、永い日本歴史の生理常態からすれば、寧ろ、極めて異例であり、その事の中に、今日の日本の最大の悲劇があることを明瞭にみて取り、復古即維新といふ日本歴史に於ける正しい循環法則を、実践の勇氣の旗として強く掲げることこそ、神道青年に求められてゐる今年の課題ではあるまいか。

(神宮学部長・神宮皇学館長)

明治維新百年記念

東海五県神社関係青年大会

「明治維新百年記念・東海五県連合神社関係青年大会」が去る二月二十五日、名古屋・熱田神宮文化殿で各県の青年五百名が集り盛大に挙行された。

愛知県神道青年会が中心となり各県神道青年会が合同で、ほぼ一年間にわたつて綿密な準備の上で開催されたこの大会は、神社関係の青年の集いとして若々しい元気一ぱいの明るいムードに包まれ、予想以上の成果をあげ、東海五県はもとより、全国神社関係者に大きな反響をよんだ。

殊に大会の運営については、従来からの形式にとらわれた方法から脱皮して、青年らしいユニークなものを取り入れて若者の祭典として大いに気をはいた。

当日は幸い快晴に恵まれ、本県からも神青、氏青百名近い人員を貸切バスで会場に送り込み、地元県を除けば最高の参加人員となる。

大会の内容については各所で御存知の通りであるが、式典での青年の意見発表では本県代表として氏子青年会副会長宮本三郎君が壇上に立ち「神道と生活」と題して発表、明治維新の意義と現代青年の使命を強く訴えたと会場からも共鳴する大拍手があつた。

大会終了後本県のみで名古屋の街をバスで観光、特に名古屋テレビの放送局見学、テレビ塔見学など、和気あいあいのうちにバスが津市に帰着したのは午後十時。それでもこの一日の成果は本県にとつても大きなものがあつた。

ユニテリアン・ユニバーサリスト

世界年次大会に出席して

山本行隆

米国における有数の産都市として知られるクリブランド市のシエラトンクリブランドホテル大ホールに於て、五月廿九日午前九時より、米国をはじめ世界各国よりユニテリアン・ユニバーサリスト協会の代議員約二千名が集り、年次大会が開かれました。

会長ドナ・グリー博士は開会にあたりその挨拶の中で特に私の紹介を次の通りしていただきました。「山本行隆師は日本で最も古い而も代表的な神社である樺大神社の神主であります。日本の神道はあらゆる宗教を何らこぼむことなしに受入れ、その教義は人間は総て神の子であり性は善である。天地の法則を感悟し修行、実践に依つてより良き社会を創り、世界の平和と繁栄を計ると云うユニテリアン・ユニバーサリストと共通のものをもっています。この神社神道を皆様に理解して頂く為に特に本大会に委員会は師に招待状を送り、ゲストとしてお迎えしたのであります。山本師にお願いしてこの大会の議事を始める前にこの大会場を被ひ清め、そして皆様の幸福と世界平和を祈念する祭典を神道の儀式により今より執行して頂きますから、山本師と共に皆でお祈りを致しましょう」

私は、中央壇上に神籬(ひもろぎ)を立て、斎服に身を包み清めて、雅楽を奏し、修夜、降神、そして人類の幸福と世界平和を祈願した祝詞を奏上したのであります。

その時さしもの大ホールはほんとうに静まり返り、敬けんな祈りの態度を背後から感じました。私はこの時程全人類は皆神から授けられた命をもつた神の子だ。この信念と信仰をもつてすれば世界平和の実現は可能である。祖国をはなれた異郷の地に於いて一人の日本人によつて世界の国々から集まつた多くの人が多少とも理解をして貰い各人種が同心となつて祈りを捧げることの出来たこの実現に対し大神に心からなる感謝を申し上げ、感激が、胸にこみ上げてまいりました。

式が滞りなく了りました時、会場から「サンキュー」「サンキュー」のどよめきがおこりました。大会々長は「誠に有難い事でありました。あたかも神籬に天地の神々が降臨して我々を護り導いて下さる様な気がしました。そして我々の心も体も清まりこの大会がスムーズに進行する事を信じます。この言葉がマイクに流れ二千の参会者の心に深く銘せられるものがありました。その後大会の会議に入り登壇を求められましたので、加藤壯一氏の通

訳により神道についての説明と挨拶を致しました。「日本の神道は神惟の道と申して人間の歩むべき道を天つ神から授けられ、地(くに)つ神の導びきによつて修行実践することが、神道である。日本の神社は十萬社有りといわれ、国土を生み、開き、統治した神々が祀られている。その神には永遠に休むことなく天地自然の生きとし生けるものを導びき守護して居られるのであります。八百萬の神々は天つ神国つ神とたたえられ、天つ神の根本の神は天照大神であり、国つ神の根本の神は猿田毘古大神であります。

天つ神は諸々の設計を担当せられ、国つ神がその実行のための尊きをされるのであります。只今行いました神事は、天つ神、国つ神、八百萬神をこの神籬に降神して心からお祈りを申したのでございます。

以上がユニテリアン・ユニバーサリスト大会の本会議における私の果しました役割であります。申すまでもなく、会議は終始誠に和気堂に満つる言葉通りでありました。正午より開かれました風食会には大会役員会に招かれられた、委員長カッフル博士から私の更に詳しい紹介をせられ、求めにより挨拶文を英訳して配布し、神道について詳しく卓話をする機会を得ました。まことに有意義であつたと存じます。

ユニテリアンとは 日本語では「自由宗教」と呼ばれ、北米を中心に活動する宗教団体

特定の信条、教義を持たない。民族人種、国家の差別をせず世界の総ての宗教の持つ価値を認めている。そのため人は神の子であつて、平等であるといふところから、キリスト教ユダヤ教、マホメット教、仏教等あらゆる宗教に加入している人々の入会を拒まない。

靈魂の不滅を信じ、特に善人の魂は死せる後にもこの世に残つて人々を導くとして、先人の教訓を尊び、日々それを実践している。祈りの対象には十字架はなく、天地の神々に祈りを捧げ、パイルはなく著名な宗教家、哲学者、聖者の著書を読み説いている。

現在北米に約千五百の教会があり登録会員約三十万人、信捧者三百万人と言われている。日本での教会の代表は、東京芝に居られる今岡信一良博士である。

教会の社外活動状況は、国連を中心に、人種問題、公民権運動の問題等に携わつており、又海外の宗教には積極的な協力を呼びかけている。年一回の年次総会には、世界各国から各協会の代議員が出席する。一教会の例として、ロチェスター市にある教会の場合、会員一千名、牧師はロバート・イースト博士、月予算額一萬ドル、宗教活動の他に、幼稚園経営、人生指導、各種文書発行書籍販売などを行っている。(本会前会長)

山本氏には去る五月廿日より大日間渡りされて神道宣布に報告書をもつた後アメリカ大抵の旅なる報告書をもつたので氏の許を得て転載させていただきます。(編者)

明治維新百年記念東海五県神社関係青年大会の最終準備会が去る一月二十二日伊勢市、猿田彦神社で開かれ、五県から二十数名の会員が集まり大会成功の為午後一時から午後六時まで熱心なる討議を重ね、二頁に報告の大会を持つに至った。この準備会には各県持回りで重ねて五回持たれそれぞれ準備委員が出席した。

◎東海五県神青研究会

六月十九日、熱田神宮の一室を借

◎東海五県臨時協議会

伊勢市で開催

神道青年全国協議会では発足二十周年をむかえその歩みをふり返って今後の発展の糧と、現在着々とその記念事業を進めているが、本会もそれと歩みを揃え昭和二十四年発足以来二十年をむかえ来年度二十周年の記念行事を目下検討中であるが、これひとえに諸先輩の築いてくれた数多くの成果あってこそ感謝に堪えない。発足当時から今日までの歴史

◎発足二十周年

愈々発展を

会則により本年左記の方が会員を退かれました。今迄の御活躍、御協力に感謝いたしますと共に今後後輩の指導よろしくお願ひいたします。小森典雅君(津市)・川北修君(四日市市)・松生健君(名張市)尚、神宮会員の浦田正克君は上野市の郷里の神社に転勤された為一般会員となりました。

◎本年退会者三名

御協力ありがとう

最近会員の会費納入状況が至って香ばしくなく、会運営に支障を来している。事務局も事あるごとに未納者には納入方を呼びかけているが会員には多分忘れておられる方もおられるのでは、又送金を面倒がらるる方たりに納入依頼も行ってあります。八月には岡野会長自ら車を駆っての集金ドライブをするなど困りはてております。この努力を御賢察下さってどうか速時納金下さる様切望いたします。

◎木平事務局局長全快

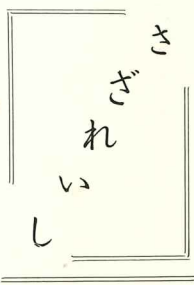
本会事務局局長を永年つとめていた

去る三月胃潰瘍と胆嚢手術の為約二ヶ月間にわたり入院闘病生活をされその後自宅療養中の処、目出度く全快され現在以前にも増した体力で鋭意本社事務局長と共に本会事務局局長を兼ねて担当していただくことになり本誌を借りて木平氏よりも御礼を申し上げます。御報告申上

◎氏青全国大会で

二氏青会全国表彰

昨年十一月二十三、二十四日の両日東京で開かれた氏子青年全国大会で、春日神社氏子青年会(阿山郡)猿田彦神社敬神青年会(伊勢市)の二単位氏青会が全国で初の表彰を受けた。両会共当県で単位神社での氏子青年会発足の歴史も古く、現在なお発展を見ながら活躍されており、本県氏青会組織の母体ともなっており、両会の今後の躍進を期待するものである。尙当日は両会共数名づゝ代表が上京、表彰状、ペナントを受けた。本会からは喜田川理事が出席した。



事務局通信

◎上野貞文君沖繩へ

八月六日から十四日まで、神青協二十周年記念事業の一つとして「沖繩祖国復帰祈願調査団」に神宮会員の上野貞文君が参加が、沖繩の複雑な諸問題を神道青年の眼で実地に見聞され、慰霊祭や復帰祈願祭を執行して帰られた。

◎発足二十周年

愈々発展を

正副会長を御紹介申し上げます。初代会長 宇仁 一彦(神宮)全 副会長 佐野 衛(鈴鹿市)全 右は二期重任 宇治土公貞幹(伊勢市)全 副会長 佐野 衛(鈴鹿市)全 三期重任 佐野 衛(鈴鹿市)全 副会長 井後 政秋(四日市市)全 四代目会長 宇治土公貞幹(伊勢市)全 副会長 井後 政秋(四日市市)全 五代目会長(副)井後政秋(四日市市)全 (後) 宇治土公貞幹(伊勢市)全 副会長 神田 信忠(阿山郡)全 副会長 森口 彊(神宮)全 六代目会長 宇治土公貞幹(伊勢市)全 副会長 兩名重任 右は二期重任 八代目会長 山本 行隆(鈴鹿市)全 副会長 兩名重任 九代目会長 岡野俊文彦(一志郡)全 副会長 神田 信忠(阿山郡)全 副会長 河村 士郎(神宮)全

◎昭和四十二・三年度役員

会長 岡野俊文彦(一志郡)再

副会長 秦 正彦(神宮)新全 神田 信忠(阿山郡)再全 片岡 昭雄(熊野市)新理事 松永栄木(桑名市)・田中勇登(鈴鹿市)・喜田川忠之(一志郡)・駒田政美(安芸郡)・塩谷陸男(津市)・高田喜博(上野市)・新居遠一(上野市)・中野幸彦(伊勢市)・遠豊雄(多気郡)・仲重信(尾鷲市)上野貞文(神宮)・矢野憲一(神宮)事務局 木平八郎(本社庁主事)書記 村上貴紀(津市)

◎会費納入に御協力を

最近会員の会費納入状況が至って

この一通の手紙には数多くの意味が含まれている。神宮会員の矢野憲一君宛に届けられた手紙ですが、我々に教えられる点多々とありと矢野君に特にお願いして公表していただいた。(編者)

昨年六月から米国カリフォルニアのクレアモント大学に留学されていきました神宮会員の大垣豊隆君の便りを紹介します。大垣君は一年間大学院で宗教学を専攻され目下、ヨーロッパ・アジア諸国の宗教事情を見学しながら帰途に着いています。前略「バラが咲いたバラが咲いた真赤なバラが」という歌が一昨年流行しましたが、このバラはただ一本



この歌詞を最後まで読めば、その解答は得られるかも知れませんが、「さびしかった私の庭が明るくなった」ことが大切なのでそのバラが一本だけか、あるいは二本以上かはあまり私共には区別する必要はないでしょう。昨年カンザスの農家に滞在していたある朝のさし、僕の食卓にバラの花が花瓶に飾られていました。僕は「ビューティフルローズ」と云ったら、この家のおばさんは即座に「ロージズ」と大声で直しました。

「私はあなたのために、たった一本だけ切るいうケチなマネはせず、たくさん切ったあげたのに、それがわからないのですか。ちゃんと目があるのを見えないのですか。二本以上たくさんあるではないですか。」と言はばかりの強い語勢で厳しく即座に言はれたため、その朝食がまぎらなかつたものです。なるほど、英語を話す人は幼稚園に行く前から、単数・複数の区別は出来ませうから、大きな僕にそれが出来ないと思っ許せなかつたのでしよう。「ここに神様が居る」といった場合「その神様が居られ私共を守って下さること」が大切なので、神様が単数が複数かは私共には区別する必要はないのです。それが英語では必ず区別しなければならぬのです。一神教とか多神教とかは、日本語で考える場合はあまり大切な問題ではないと思いますが、外国では大問題です。神道はその言葉を使う人間集団との関係を表すものではないかと。世界にある言語の数と同じだけの数の異った小世界が存在し、ある特

定の言葉(日本語なら日本語)は、その文化に属する成員に、ある特定の手法で物を観察し、自分を表現する手段を示すものなのでしょう。ドイツ語で書かれた日本の田植祭に関する論文を読んだ時、僕は「何とドイツ語には稲に関する言葉が少ないのだろう」と感じたことを思い出します。ナエ、モミ、ナワシロと一語で言える言葉が無いのです。日本の神道は日本語の小世界のものなのですね。ただ、今後の問題はすべての小世界がその壁をとり除いて行こうとする時代に、神道はどうなるかという事です。これが私共若い者の課題の一つだと思いますが、カベは簡単になくするものではないようですね。離れていきますと神宮の奉仕が実に神々しく感じられます。飛行機で帰って奉仕したい気持ちです。敬具

郷土の明治百年を訪ねて

(二)〔伊勢市〕

青年少宮司 浦田長民

明治維新の大改革はあらゆる方面にわたって行われたが、伊勢市(宇治山田)と神宮でも史上未曾有の大改革であった。

宇治山田においては、幕府の出入機関である山田奉行や、自治体としての町内を支配した宇治会合と山田三方の政治機構が廃止され、重大な社会的・経済的基盤を成していた師職の制度が禁止されたのである。

神宮の改革も枚挙にいとまがないが、主なものとして、祈年月次祭の奉幣の再興、旧祭典の整理と新規祭典の制定など祭典上の大改革天皇の御参拝が始めてなされたこと、世襲制の廃止と御師の廃絶など制度の大変革がなされた。

これら「明治の御改正」は元年にはじまり漸次行われて四年に決定的大改正となり、更に進展した。詳細は「大神宮史要・神宮要綱・宇治山田市史・神宮百年の歩み(明治神道百年史第一巻の内)近刊予定の神宮近代百年史」等を参照していただきたい。ここで特記したいのは、この改正の立役者の一人、浦田長民のことである。

長民は天保十一年に生れ、十八才にして世襲の権禰宜となり、二十才で家を継ぎ宇治年寄となり、勤王の

志士と広く交際し、三条実美に可愛いがられた。

明治元年度会府に出仕し、神祇官や教部省に勤務したが、明治五年神宮少宮司となった。若年三十二才である。

明治維新を成しとげたのは青年の熱と力だと云われるが、神宮の維新も例外でなかった。

青年少宮司は大宮司田中頼庸を補けて在任五年。祭典の規範となる「神宮明治祭式」を選定し出版、御師の頒布していた神宮大麻を神宮司庁に引継ぎ、大麻製造局や神楽殿の前身である私祈禱所を創設し、神宮教院を開設して天下に神道布教の道を開くなど大いなる功績をあげた。当時、御師の数は四百三人でその全収入が毎年二十五万円あったという。(明治二年調)

立派な邸宅を構え、多くの使用人をおいて豪勢な生活をしている者もいたのだ。それが一朝にして廃絶になったのだから動揺は大きかった。今もなお浦田長民を根に持つ者さえ居る。多くは零細な小商売を営んでようやく口糊をすづくにすぎなかったのだから無理もない。しかし、天下のために大改革をあげてきた長民はじめ関係者は偉大だ

った。それにもまして、いかに時代がなせるわざとはいえ涙をのんで従った御師達も偉かったと思う。

これを記している時、文化勲章受章者、彫刻家の平櫛田中翁から神宮大宮司に書がとどけられた。墨黒々と力強く、あまりの気魄に感激したので御披露する。

「今やらねば、いつできる。おれがやらねばだれがやる。不老 九十七翁田中」

先生は明治五年の生れ、明治は氣骨があった。若さにあふれていた。我々もそれに続かねばならぬ。

矢野憲一記

編集後記

○神青・氏青合体問題の是非が云々されている。それぞれの立場、内容でもっともな意見であり、一概に結論を出し得ない。

○私達はそれ以上にもっとも自己練習を為すべきではなからうか。人を導く為にはそれだけ自分の地歩をしっかりとっておかねばならぬだろう。

○今日の世界は団結する時に力が生じる。決して日本だけの神社神道であってはならないが、それには我々神青が中心となって団結する力の基を築かねばならぬ。

○明治百年はそれを教えてくれているのかも知れぬ。幡掛先生には御多忙の処を我々に警鐘を与えていただき感謝いたします。

○この上に立つて山本先輩の道に続こうではないか。

○すでに海の外で孤軍奮闘している大垣君がいる。まだ、遠い道の様に思うが、早くこぎ出さねば又海山は荒れてしまおうだ。

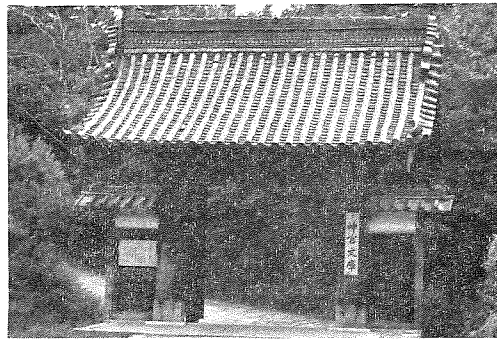
○本会々員は一人一人自分の為すべき事を充分把握されています。会報は活躍される様望んでいます。会報は会員が己の責任の所在を明らかにし、進むべきみちをのべの一助になつてくれる様と念願しています。

○内容、編集等御希望、御意見はどしどし御遠慮なくお申下さいませ。

○今号も明治百年記念号としました。が意を得ずお許し下さい。

○編集については矢野君が大いに力を貸して下さいました。

○会員一同の御健斗を祈ります。



〔写真〕旧師職の代表的遺跡・江戸中期の建築で福島みさき大夫の門であった。現在神宮文庫の門となつて遺されている。